



みんなで学ぼう!!



“こうべユニバーサルデザイン”

「みんなにやさしいまち」をみんなでつくろう!



公益財団法人こうべ市民福祉振興協会

ユニバーサルデザイン (UNIVERSAL DESIGN) ってなんだろう？

**ユニバーサル (universal)・・・すべてに共通の、普遍的な
デザイン (design)・・・ある対象について良い構成を工夫すること**

わたしたちのまちには、赤ちゃんから子どもや成人、お年より、男性・女性、外国人、車いすを利用する人、視覚障がい者、聴覚障がい者、そのほか外見ではわかりにくい障がいがある人、妊産婦、ベビーカーを使っている人などいろいろな人が暮らしています。

ユニバーサルデザインとは、こうした年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、

「最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、

まちや建物、もの、しくみ、サービスなどを提供していこうとする考え方

のことで

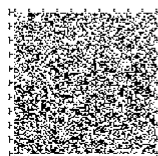
ユニバーサルデザイン (UNIVERSAL DESIGN) はその頭文字をとって、「UD」として表現される場合もあります



こうべユニバーサルデザインシンボルマークについて

ユニバーサルデザインの「U」、「D」をモチーフに、すべての人にやさしいデザインを人々の笑顔で表現しました。青・緑・赤は海・山・ポートタワーを表し、神戸のまちにあふれる笑顔をイメージしています。

2004年(平成16年)に公募によりこのマークが選ばれました。



ユニバーサルデザインはどうして生まれたの？

ユニバーサルデザインの考え方はアメリカで生まれました。アメリカの大学で建築などの研究をされていた、ロナルド・メイス教授が1980年代に広めたものです。

教授は幼い頃の病気がもとで、電動車いすを使って生活をしていました。当時のアメリカでは「バリアフリー」という考え方がさかんに使われていました。

バリアフリー（BARRIER FREE）とは？

バリア（barrier）…障壁、障害物

フリー（free）…自由な、（道路・通路など）自由に通行できる

たとえば、車いすを利用している人が階段をのぼりおりすることは容易なことではありませんね。でも、その階段にスロープをつければ、以前より簡単にのぼりおりすることが可能になります。

バリアフリーを日本語に置き換えると、

「特定の誰かのための取り組みをおこなうこと」となります。



「最初からみんなにやさしいデザインを！」

バリアフリーはバリアを見つけるたびに、それを取り除くような取り組みをしなければなりません。

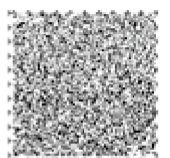
教授は「できるだけ多くの人を使いやすいデザインを初めから考える」ことが必要と考え、ユニバーサルデザインの考え方を広めていきました。

1990年代になると、日本にもその考え方が徐々に取り入れられ、広まってきました。ユニバーサルデザインをもっとやさしく言いかえると

「最初からみんなにやさしいデザインを考えること」となりますね。



ユニバーサルデザインは「みんなにやさしい」から、
バリアをつくらないってことなんだね！！



ユニバーサルデザインの7原則…UDには7つの原則があります

1997年、ロナルド・メイス教授は仲間と共同でユニバーサルデザインの7原則を発表しました。ここでは、7原則をわかりやすく実例を挙げて紹介します。

原則1：誰にでも公平に利用できること
誰にでも利用できるように作られており、かつ、容易に入手できること。



例) 鉄道駅などでの階段、エスカレーター、エレベーターの併設。全ての人々が公平に利用しやすくなっていますね。

原則2：使う上で自由度が高いこと
使う人のさまざまな好みや能力に合うように作られていること。



例) 公園のベンチ。ベビーカーや車いすを利用しているときも、乗ったままテーブルを使用できます。

原則3：使い方が簡単ですぐわかること
使う人の経験や知識、言語能力、集中力に関係なく、使い方がわかりやすく作られていること。



例) ボタンが少なく、形も区別しやすいリモコン。使い方がわかりやすいと、より多くの人にとって使いやすいモノになりますね。

原則4：必要な情報がすぐに理解できること
使用状況や、使う人の視覚、聴覚などの感覚能力に関係なく、必要な情報が効果的に伝わるように作られていること。



例) 絵文字(ピクトグラム)での案内。絵文字を使用し、大きな表示にすることで、情報が理解しやすくなりますね。

原則5：うっかりミスや危険につながらないデザインであること
ついうっかりしたり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られていること。



例) 駅のホームドア。線路への転落を防ぐことで、誰もが安全に利用できますね。

原則6：無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
効率よく、気持ちよく、疲れないで使えるようにすること。

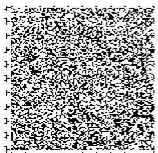


例) UD自動販売機。しゃがむ必要のない取り出し口、低いところにもあるボタン、小銭を入れやすいコイン入口などの工夫があります。

原則7：アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること
どんな体格や、姿勢、移動能力の人にも、アクセスしやすく、操作がしやすいスペースや大きさにすること。



例) 多目的トイレ。ゆったりとした広さをとることで、車いすや子ども連れの人にも使いやすいですね。



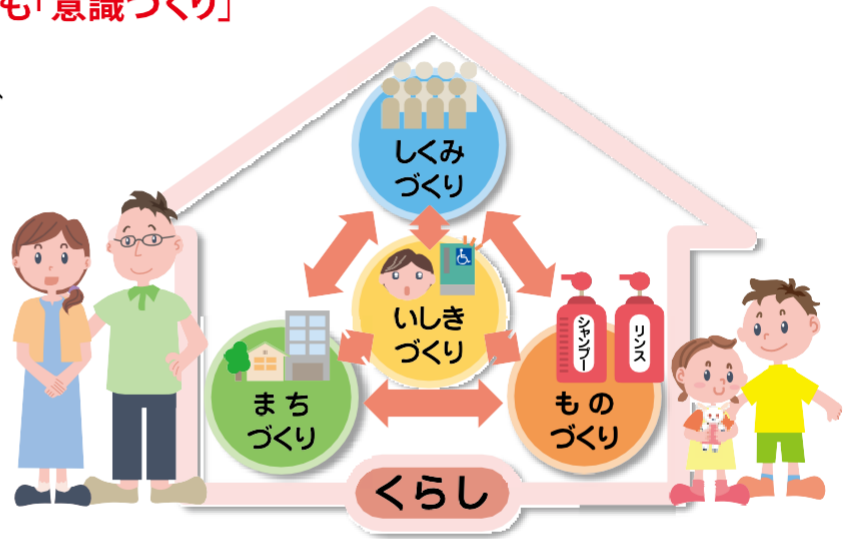
ユニバーサルなまち「こうべ」において

重要なのは4本柱 そのなかでも「意識づくり」

ユニバーサルデザイン(UD)は、ものづくり、まちづくりなどのハード面の整備を中心に考えられがちです。

しかし、みなさんが日ごろの暮らしの中から、UDを意識すること、その意識を具体化するためのしきみをしっかりと整えることも重要になってきます。

みんなでUDを意識することで、よりユニバーサルなまちになっていくのではないのでしょうか。



それぞれに求められる役割～ユニバーサルなまち神戸はみんなで作る!

- ・自分のまちや暮らしに目を向け、まちづくりやものづくりのあり方を考え、積極的にまちづくりに参加、提言し、行動します。
- ・一人ひとりがみんなの役割を認め合い、支えあう心で、行動します。

- ・常に多様な利用者の意見を聞くなど、市民参画によるプロセスを重視し、一人でも多くの人が利用しやすいものへと改善します。
- ・誰もが働きやすい職場環境づくりにも取り組みます。

事業者

市民

市

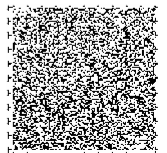
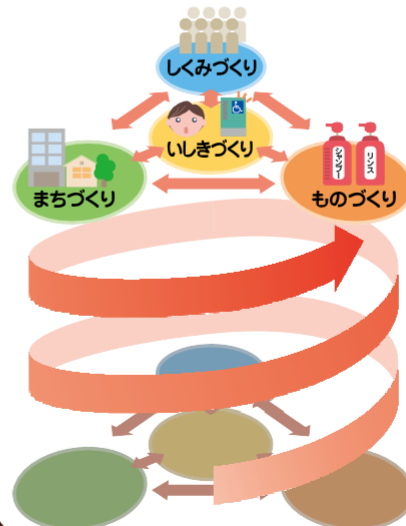
- ・職員の意識づくりを図り、公共施設の整備をはじめ、行政サービスなど、市の施策をUDの視点からチェックし、改善します。
- ・普及・広報活動、情報発信に取り組み、支援を行います。

もっと神戸を魅力的なまちに!

～進化しつづけるユニバーサル社会～

全ての人にとっての「ユニバーサルな社会」はすぐには実現しません。さまざまな人の意見を取り入れながら、1歩ずつ進めていくことが大切です。

魅力的なまちを目指して、少しずつでも目標に向って常にスパイラルアップ(段階的・継続的な発展)を図っていきます。



みんなが使える「ものづくり」

事業者のみなさんは、さまざまな利用者の声を取り入れ、だれもが使えるUD商品の開発・普及に取り組んでいます。

みなさんもおうちにあるモノが以前より使いやすくなっているか、考えてみてくださいね。



みなさんは、髪を洗うときに目を閉じたり下を向いたりして、シャンプーとリンス（コンディショナー）を間違えて使ったことはありませんか？

シャンプーの容器には「きざみ」がつけられていて、キャップや本体に触れることで簡単に違いがわかります。もともとは視覚障がいの方に使いやすいように考えられたのですが、みんなに使いやすい工夫ですね。

右の写真の商品もUDの視点で考えられています。何に使うものかな？

さまざまな視点から考え、どこが使いやすくなったのか、考えてみましょう！



安心・安全で快適な「まちづくり」

多くの人が利用する施設では、さまざまな利用者に配慮し、誰もが安全・快適に利用できるよう、取り組んでいます。

新しく整備されている設備は、どんなところが以前と変わったかな？

駅改札口には幅の広いところがあります。どんな人に使いやすいでしょうか？
また、どういう時に使いやすいでしょうか？



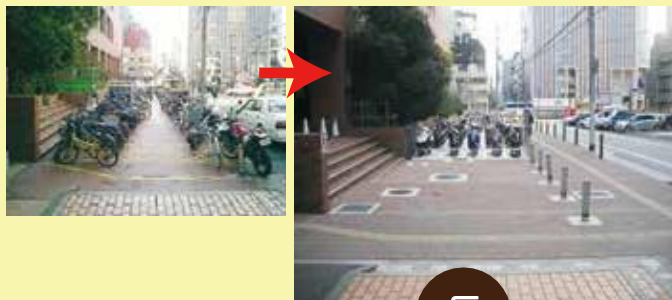
ノンステップバスはバス停に止まると、車体がバス停側に傾き、乗り降りがしやすくなります。

車内もいろいろな配慮がされています。



だれもが安心して歩ける安全なまちづくりをめざして歩道の再整備を進めています。

歩道と駐輪スペースの区別がなかったものが、歩道を広げ、駐輪スペースも整備をし、どちらも利用しやすくなりました。



誰もが参画できる「しくみづくり」

誰もが自由に社会参画できるとともに、社会のさまざまな制度や基準、情報・サービスの提供の方法について、UDの視点から見直していきます。

神戸市のホームページでは、ほぼ全ページで音声読み上げ対応がされています。また、文字の大きさや背景色、言語が変更できるなど、より多くの人にとって利用しやすく改善されました。



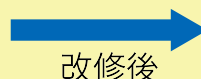
「こうべ・だれでもトイレ」は、車いす・オストメイト対応設備や大型多目的シートまたはベビーシートを標準装備とし、さまざまな方に配慮・工夫された多目的・多機能トイレです。左のシンボルマークが目印です。

しあわせの村

北区にある総合福祉ゾーン「しあわせの村」では、市内の施設に先駆けて「しあわせの村ユニバーサルデザイン推進指針」をまとめるなど、UDへの取り組みを積極的に行っています。



計画の段階から利用者に参画していただき、利用者の声を積極的に活かしています



改修後



一人ひとりを大切にする「いしきづくり」

ユニバーサルな社会を実現するためには意識づくりが最も大切。すべての人が社会の一員としての役割を持ち、持てる力を発揮するため、おたがいに認めあい、支えあい、思いあう心を持って行動しましょう。

身の回りにある“困った”に気づこう！

みなさんはどんなときに「困ったなあ」と思いますか？
ひとりひとりの「いしき(心がけ)」で誰もが安心して暮らせる“やさしいまち”になっていきます。
下のイラストで考えてみましょう！



わたしたちには何ができるでしょう？～少し考えてみましょう！

みなさんがすぐにでも取り組むことができることを考えてみましょう！

取り組むことができるものには、下の項目の 印のところにチェックを入れてくださいね。

いくつチェックできるかな？

チェック1

「おはよう」、「こんにちは」、「ありがとう」…
元気にあいさつをします！



チェック2

相手の話は
じっくり聞きます。

チェック3

困っている人がいたら
声をかけます。



チェック4

お年よりはには
ゆっくりとはっきりと話します。

チェック5

外国語のあいさつを覚えます。



チェック6

歩道や点字ブロックの上に自転車や荷物を置きません。
自転車はきちんと駐輪場にとめます。



チェック7

盲導犬や介助犬、聴導犬には
さわりません。



チェック8

近所のおじいさん、おばあさんの
ごみ出しのお手伝いをします。



チェック9

わたしたちのまわりには、お手伝いが必要な人が
いることを知っておきます。



チェック10

エレベーターや電車に乗る時は、入口前をあけて、
おりる人が先におりてから乗ります。

